

安心安全の海外旅行へ業界と連携強化

「たびレジ」活用して緊急事態への備えも

外務省が昨年7月に「たびレジ」を開始してから間もなく1年が経過します。渡航先や日程などを登録しておくことで、海外旅行中に事件や事故などの緊急事態が発生した時に、メールなどで安全に関わる情報を提供してもらえ「たびレジ」は、安心安全の海外旅行を支える仕組みです。7月1日の「旅の安全の日」に向けて、外務省の三好真理領事局長に、旅行業界との連携・協力などについてお話を聞かさせていただきました。

異文化理解や寛容の精神を養う海外旅行

——若者が海外旅行をしなくなったと言われてきていますが、若い時に海外へ出かけることの意義などについては、どのようにお考えになりますか。

三好局長 インターネットが普及して、バーチャルには世界のどこへでも行けるし、何でも見ることができると感じられる時代になったということも影響しているかもしれませんが、若い世代の皆さん



三好領事局長

には、本物を見たり現実にあふれることで感動を覚える体験をしていただきたいと思えます。子どものころ、大阪の万国博覧会で「月の石」を見た時の感動とその記憶は、今も残っています。私が入省した1980年当時は、まだ、学生の卒業旅行が一般的ではなく、初めて海外へ行ったのは、外務省に入ってからでした。最初に研修へ向かう時、アンカレッジ経由で辿り着いた上空からみたドイツの様子、緑の中に赤い屋根が連なる光景は、今でも鮮明に覚えています。

若い皆さんには、是非、海外で感動する体験をしていただきたいと思っています。日本にとどまっていると、国内の物差しだけでは物事を見たり考えたりすることができません。海外の様々な国で色々な経験を重ねていくうちに、物差しの数も増えていき、異なる国々の文化を理解する価値観というものが備わってくると思っています。海外旅行を通じて、異文化への理解、寛容の精神というようなものを養っ

ていけるのではないのでしょうか。もちろん、外務省領事局長という立場からは、できるだけ治安などに気を付けて、海外旅行を楽しみながら、無事に日本へ帰ってきただきたいという思いが一番であることは言うまでもありません。

——現地の大使館や総領事館には、どのようなトラブルの相談が多いのでしょうか。

三好局長 外務省は毎年「海外邦人援護統計」を発表していますが、2013年度の統計によると、総援護件数は1万77796件で、総援護人数は1万9746人でした。援護件数が最も多いのは「犯罪被害」の5353件（5746人）で、「事故・災害」は255件（332人）となっています。地域別の傾向としては、アジア地域が多く、窃盗や詐欺などの犯罪被害や麻薬などの犯罪加害が増えています。特に、知らないうちに麻薬の運び屋をやらされるといったようなケースの場合、その量刑も日本とは異なりますから、十分に注意していただきたいと思います。暴動・政変・テロなどに関わる邦人保護としては、今年初めには、シリアでISILに邦人2名が殺害され、3月にはチュニジアで邦人3名を含む22名がテロの犠牲となりました。今

や世界のどこにいてもテロの脅威に晒される時代となったと言えましょ。

「旅の安全」をテーマにキャンペーンも

——現状を踏まえて、具体的な注意事項を挙げると、どのようなことがあるでしょうか。

三好局長 ぜひお願いしたいことが2つあります。一つは、海外へ出かける前に、渡航先の情報を十分に集めていただきたいということ。JATAにもいろいろな情報を発信していただいていますし、外務省も海外安全ホームページに段階別の危険情報から現地の生活習慣にいたるまで様々な情報を載せています。二つ目は、「海外モード」とでも言うべきでしょうか、要するに、国内旅行とは違うんだという意識を持つていただくということです。安全面や医療面で日本並みの国というのはそうありませんから、日本ではない他所の国へ行くんだということを十分に認識していただきたいと思っています。外務省では昨年7月から、3カ月以上の長期滞在をする場合に提出していただく在留届とは別に、より短い期間で海外へ出かける場合に登録していただく「たびレジ」という仕組みをスタートさせました。海外旅行へ出かける前に、この「たびレジ」を通じて渡航先などを登録していただく、現地で何かあった時に大使館や領事

7月1日は「旅の安全の日！」

館から関連情報がメールで届くようになります。始めた直後にモスクワで列車事故があり、車内のアナウンスもロシア語で良く分からないという状況で、大使館からのメールが届いて事情が分かり助かったというお話もいただきました。

——「安心安全の旅」に向けて、旅行会社とどう連携し、どのような取り組みを進めているのでしょうか。

三好局長 年間6回（概ね2ヶ月に1回）の頻度で「外務省・トラベルエージェンシー連絡会」を開催して、旅行会社の皆さんと緊密な連携を図っています。海外旅行保険の加入率も決して高くはないのが現状のようですから、万一のケースで巨額の費用が発生した場合にも困らない保険の有用性なども、旅行会社に協力をいただいて周知を図らなければなりません。7月1日の「旅の安全の日」から、人気タレントを起用した3か月ほどのキャンペーン展開も予定しています。領事局としては、邦人保護が重要な役割ですが、その根底にあるのは、皆さんに安全で楽しい海外旅行をしていただきたいということです。できるだけ多くの皆さんに、国際交流や国際協力を体験していただきたいと思っていますが、このような外務省の考え方を共有していただける旅行業界と一緒に「安心安全の海外旅行」を推し進めていきたいと考えています。

昨年に続いて模擬訓練を実施 7月1日「旅の安全の日」に全国一斉

JATAは7月1日の「旅の安全の日」に、昨年に続いて模擬訓練を実施します。

業界内の危機管理意識を高め、一般消費者にも啓蒙するため、JATAは昨年、内閣府により創設された「国民の安全の日」でもある7月1日を「旅の安全の日」としました。

その目的の一つとして、緊急連絡体制の確認と模擬訓練が掲げられており、JATAでは、国内旅行・訪日旅行・海外旅行の各部門で7月1日に一斉に模擬訓練を実施し、集約内容は観光庁・外務省とも共有しています。

昨年は、全国各地で会員企業90社が実



JATA九州支部は昨年、福岡空港でウェットティッシュを配布して「旅の安全の日」をアピールしました



東日観光は昨年、本社に緊急対策本部を設置し、幹部社員らが本番さながらに対応を協議しました

などの課題も浮上しています。

旅行業界にとっては、夏期商戦の只中となりますが、そういう時期にこそ、模擬訓練の実施を通じて、安心安全の意識を忘れないようにすることが重要です。

同時に、一般向けにも、旅行業界による安全への取り組みのアピール、旅行会社とお客様との責任区分の明確化、旅行保険加入促進などの効果も期待されます。

左記URLからエントリーを行うことができます。

<https://gooiker.jp/Q/autor/ja/20150528/kaiga10528/>

安心安全の意識高揚に向け会員各社による積極的なエントリーをお願いいたします。